

自然との共生で思うこと

棚橋 寛

春はウグイスのさえずりで朝早くから目が覚める。夏はセミの鳴き声で起される。秋にはコオロギ、マツムシ、スズムシなどの共演にじつと耳を傾ける。小木ノ城の自然は今も昔と変りなく、まだその環境は残されていて喜ばしい限りです。私は現在新潟と小木ノ城を往復する生活ですが、都会の生活もいい処が沢山ありますが、やはり田舎の自然と共生する生活は言葉では語り尽くし難いものがあります。山の生活は畑を耕し、野菜を育て、二ワトリを飼つて自給自足の真似ごとをやつて楽しんでいます。

最近自然と共生するなかで心を痛めているのは、人間の工ゴで自然が破壊され行うことです。人の目に触にくい事を幸いに車でゴミや廃棄物を運んで処かまわざ捨てて行きます。なげかわしい事です。山野草についても又しかりです。数年前迄は雪割草の群生地が数個所存在していましたが、今は殆んどなくなっています。心ない人達によつて根こそぎ乱獲されたのです。

大切な自然を守るために一人ひとりがマナー・ルールをわきまえた行動をすることを願つて止まない次第であります。



山野草めぐりの句

砂山 サイ

赤い花をつけた谷うつぎを見ながら山道を登つていく。

目的地に着くとまず会長の話を聞き、それぞれが山に入る。鍋の用意もできそこに今とつてきた山菜を入れる。山の水もきれいなものだ。とつてきたものは包丁などいらない。手でちぎつて放りこむ。

・すかんばも不器用に折り山の鍋

・すかんばと前の話。宮本を通つて山路に向う。「このあたりでいいかな」と居を構える。そこは越後平野が見渡せる程、眼前が広がつてゐる場所だつた。気持まで広くなる眺めだつた。そこで食べた茸汁はまた特別おいしかつた。

・山川を見おろして待つ 茸鍋

山古志村にはあちこちに池がたくさんあつた。鯉がいるのであろう。あの池の中には何十万円もする鯉がいるのだろうか。

- ・万縁に開まれ 池のあちこちに

山は紅葉しすばらしかつた。その山が又湖水に写り美しさは倍増する。その水面に魚がはねる。自然一杯の山・錦山映して湖面にはねるもの

よろしくお願ひします

池野 宏子

自然が好きで、年に数回「自然観察会」に参加していました。ところが、

入つていた会の拠点が下越であつたため、日常活動に参加しにくく、退職を機に、地元に拠点がある会を捜していたら、この会にたどり着きました。

環境問題とりわけ「緑」に関心をもつてはいますが、何程の知識も実践力もなく、ただ調子にのつているだけの人間です。「砂漠に緑を」というようなフレーズには弱く、モンゴルや中国に植

leziaに参加し、里山の勉強をさせています。現在「雪国植物園」の作業ボランティアに参加し、野鳥の観察に首を突っ込んで入会し、野鳥の観察に首を突っ込んでみましたが、こちらは全くチンパン

カンパンです。でも、面白いです。この前「ツクバネ」が食べられると聞き、試食してビックリ。煎つて塩味にしたら最高のつまみに。楽しみです。



秋の野に学ぶ



森の恵みの体験とふるさとの自然に学ぶ「秋の野に学ぶ会」が9月27日(土)上川村滝頭湿原およびキャンプ場周辺において行われました。参加者が22名で晴天にも恵まれ、有意義な研修であつたと思ひます。目的地への途中、日本一の巨木に認定されている将軍杉を見学し歴史の重さと生命力の偉大さを痛感しました。



将軍杉

平成13年に縄文杉をおさえ
て巨木日本一に指定される。

海岸地帯は亜熱
帶性植物、ガジュマ
ル、タブノキ、スダ
ジイの木が見られ
山に入ると、ウラジ
ロガシ、ヒメシャラ、
ヤクシマサルスベリ

間、それに恵まれ
たのです。三月とい
う季節を選んだのが
幸いした様です。

かわいい野生のヤクシカ、ヤクサル
の歓迎を受けながら、いかにも南国的情
な大型シダにびっくりし三代杉、扇杉、

森を残す為に自然保護に頑張ろうと
思つたところです。

念願かなつて、平成五年、世界遺産
となつた“洋上のアルプス”とも言わ
れる屋久島を訪れることが出来ました。
大きい正長石の入つた巨大な花崗岩が
隆起して出来た島です。九州最高峰、
宮之浦岳を登頂し、翌日は、あの縄文
杉に会つて來たのです。神秘的で神々
しい姿でした。俗に屋久島は『一と月

に三十五日雨が降る』とさえ言われる、
ほぼ円形の孤島で、全島が山で充ち森
林に覆われています。はるばる登山に
出かけても晴天に恵まれることは滅多
にないとのこと、幸運にも私達は四日

の木肌を不気味に感じながら、幸い山
道も足元の珍しい五葉オーレンが疲れ
をいやしてくれました。モミ、ツガ、
スギの針葉樹の巨木帯に入ると、今も
忘れられないトリモチノキに出会う。

別称、しめごろしの木と言い、クロバ
イ、屋久杉に着生し、そして枯らす、
痛々しい姿を見せつけられもしました。
やがて、ヤクザサに覆われた明るい山
頂部の稜線となり、寒帯性の高山植物
が見られ、巨岩ゴロゴロの快晴の山頂
に立つ。一日の中で四季を体感したの
です。

世界遺産に登録された為に開発とい
う自然破壊を封じてしましました。そ
のおかげで私達は樹齢数千年の屋久杉
の森を歩くことが出来るようになります
した。



当日は、朝八時十分長岡駅東口を出
発、北陸道を経て上川村へそして将軍
杉、滝頭湿原に十時三十分到着、周辺
観察とキノコを採集してキャンプ場に
移動してキノコの識別鑑定。キノコは
約五十種が識別鑑定されたが持ち帰り
の収穫量はいまいちでした。

午後はキャンプ場周辺の観察をして
三時二十分に出発した。途中道の駅で
各自の思いのままやげを手にバスの
中での楽しい談義に花を咲かせて帰途
につきました。

屋久島を訪ねて

鈴木千代枝

縄文杉

蒼柴の森植樹

金井 英雄

蒼柴の森の植樹は早いもので4回目を迎えた。6月8日(日)に盛会に行なわれました。今年も嬉しい事に『どんぐりハウス』で成長した若木が植樹の木に使われました。今年も森市長さん松川県議さんをはじめ多数の市議の方々よりご臨席をいただきました。当会の活動に応援くださっている東北電力の社員の方々、地元栖吉地区からも家族ぐるみの参加で年々参加者が増え市民の森づくりになりました。4年前の蒼柴の森植樹のキッカケは、蒼柴神社の永井宮司さんと電車で丁度私と隣り合わせの席になり、『山野草の会』がど

んぐりハウスでカシの木を育てていますが植樹する良い舞台が無いものでしようか」とたずねました。永井宮司さんは、「蒼柴の森がサギの糞で大杉が枯れて困っている。」と言お話しをして下さいました。後日この事を小日向会長に報告しましたところ、話しがトントン拍子で進み『いのちの森再生』ふるさとの森—蒼柴の森植樹を実施しようとなり、現在に至っております。この事業には会長さんをはじめ会員皆さんのボランティア精神とこれまで大変な下準備があつたからこそ出来たと思っています。あと四五年はこの事業は続くかと思いますが、最後までやりとげ、当会の名が何百年も樹と共に生き続けるためにお互いに思い出に残る楽しい汗をかきましょう。

いのちの森再生 蒼柴の森植樹

曾山 和子

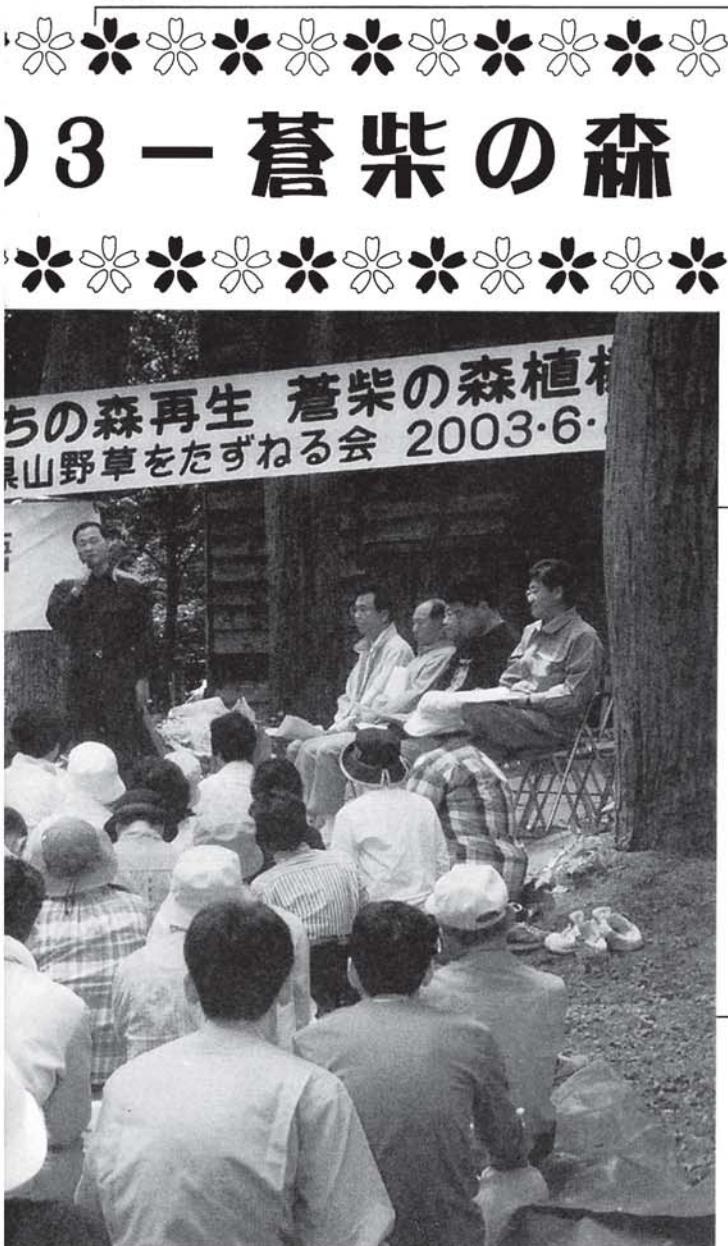
この活動もすでに4年目。今年もまたふるさとの森に植樹したいと参加しました。会に在籍して16~17年と年数だけは経ちました。が、「最近の記憶力の悪さは60歳を迎えた歳のせい」と簡単に片付け、山野草を訪ねる研修会に時折参加させて頂いています。しかし、「植生は?名前は?・エーと、エーと、エーラ。」「駄目だ!やつぱり思い出せない。」こんな自分に近頃では、自然の森を感じ取ることも勉強の一つと諦め気分です。それでもこの活動だけは、アカガシをリーダーとするウラジロガシ・シロダモ・ナラカシ・・・の名前。これだけ分かれば何とかなりそう。知識不足の私もきっと楽しめそうと初回から参加させて頂いています。

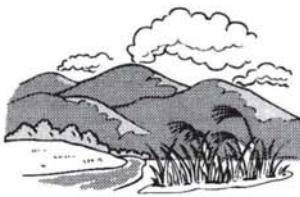
会員の一人として、この行事は毎回を重ねる毎に楽しみが増して参ります。活動に賛同し共に汗を流して下さる東北電力社員の皆さん、ジャスコイオングループの皆さん、小日向先生のご支援者。市



外から、又は遠く県外からの参加者。市長を始め議員の方々関係者大勢の市民の皆さんのが暖かいご支援ご協力の賜物と思います。年々参加者も増え、命の森を育していく輪が大きく広がっています。

さらに今年は、地元栖吉小学校の子供達と父兄の方々が「蒼柴の森を自分の手で再生したい」と願い参加されました。「これは蒼柴神社のご神木と同じアカガシです。これはウラジロガシ。」「近くに来たときは、草取りしたり元気かどうか様子を見て下さい。」等の言葉に目を輝かせて聞いてくれました。そんな姿に触れながら、我々会員はおそらく見ることは難しいであろう青々と茂るふるさとの森を思い浮かべ、





若木の成長を願いました。この子供達が本物の自然の中で自然に優しい生活が営めるように、緑を取り巻く環境を持続的に考えていく必要性を強く感じました。次世代を担う子供達が、緑の大切さを五感を通して感じ取り受け、継いでいく為のお手伝いが出来たようにも思いました。

いい汗を流させていただきました。準備された方々ありがとうございました。お世話になりました。

森づくり200



初孫誕生に記念樹を

金子 久信

悠久山公園は「蒼柴の森の緑濃く」と長岡市歌にも詠れ、市民の憩いの場としても又癒しの場としても永く今日まで大勢の市民に親しまれている。当山野草の会としても四年前から神社社務所裏の社叢林で行う植樹は、年間事業である「蒼柴の森再生」の活動により延べ約六四〇本のアカガシ、シロダモ等が植樹され、順次成長していることは、会員の皆様もご承知の通りです。

昨年秋この緑多い蒼柴神社にて、御神木である「アカガシ」のドングリを五十粒程拾い会社の裏庭で育苗して見ました。丁度昨春白根市のブドウ園に嫁いでいた娘に男の子が誕生。私は初孫なので何か想い出となることをと考



え、アカガシの種を実生から育て、成長した苗木を記念樹として贈る事にしました。四月に生れた孫は、先天性心臓疾患である事がわかり、生後九ヶ月で生死にかかわる大手術を受けたが、お陰様で術後の経過も良く、今では健やかに成長しており、今更ながら医術の偉大さに感謝しております。

小日向会長から常日頃「樺の木一本で三家族養える」と貴重なレクチュアを聞いています。巨木に成長した樺の木を想像し、その下で孫が元気に遊び又癒しの効果を得る、そして曾孫や次世代へ受け継がれ、ゆく末は「二五〇年のちと心の森」の礎となる。その様な事を確信して、親バカならぬ孫バカとなり孫の成長と樺の木の成育に夢を託す次第です。



森づくり2003—八方台に再び緑を

とその周辺にある苗木を植え、その横に町名と氏名を書いて植樹記念とした。一人三本程植え、木と記念撮影に納まるなど和気藹々と一時間程で植樹を終えた。



八方台に再び緑を

当会では「八方台に再び森を甦らせよう」と八方台休暇センターが廃止になつた昨年から跡地への植樹を始めた。

二回目の今年は10月19日(日)に実施。

趣旨に賛同した市民250名が参加し、昨年の植栽地の西側斜面にあたる約450m²にブナ・ミズナラなどヒメアオキーブナ群集の構成種39樹種800本を植樹した。

夜中雨が降つていたのに当日は抜けるように青い空が広がる秋晴れとなつた。前の晩の雨で土は充分に水を含み絶好の植樹日和。

会員が事前に樹種名を記した名札の付いた苗木を植樹配置図に従つて配置しておいたのでスムーズに植樹が進んだ。参加者は、自分の木

その後青空シンポジウムの開催。

鎌倉から駆けつけた人、還暦記念に植樹した人、鋸山登山の途中に八方台をよく通る人、豊かな自然に魅せられて悠久山に移り住んだのに、キジの減少に淋しい思いを抱いている人やボイスクワットの少年達がこの植樹に參加した思いを熱く語ってくれた。

そのあと会員手作りの豚汁がふるまわれ昼食、閉会式と進んだ。

その後希望者で周辺の自然観察を行つて一時半頃閉会した。

当日の植樹作業以外にも、協賛金や一本千円で苗木を買つてくださるなど570名の方々が資金面で援助をしてくださいました。

この植樹にあたり、講演会を開いたり、人が沢山集まりそうなイベントに出かけてチラシを配るなどのPRと募金活動を積極的に行つた。こうしてこの植樹を私達が期待した規模で行うことができた。その一番の理由は、21世紀は自然の征服ではなく自然との共生の世紀と認識し、地球を緑でおおつて環境破壊による人類破滅の危機を防ごうと思っている人が多いと言うことだと思う。ご理解いただき多くの人々の願いを裏切らないよう、植樹地の管理を私達会員の手でしつかりやつていかねばとの思いを強くした。

一つづくの苗木は小さかつたけれども植え終つてみると、見ごたえのある幼木林ができるが、先々の成長が楽しんでいたのでスムーズに植樹が進んだ。参加者は、自分の木



『八方台の森植樹に参加して』

(鎌倉市在住) 金井 正典

2年前定年を迎えて、会社人間から国から給料を頂く年金受給者となり、これから給料を頂く年金受給者となり、これまで地域社会に還元したいと思つて、いたところに、実弟より蒼紫の森の下草刈りの作業に参加してみないかと言われ不安ながら参加してみました。会のモットーである「いのちと心」を育て人々の人間性の回復を願うボランティアを実践されておられる参加会員の明るい笑顔に感動し、今回も親孝行を兼ねて、前日の下準備から参加させていただき、周到な下準備の大変さを痛感しました。

顧みますに、還暦を過ぎると人間にも回帰現象が起きるのか、高校まで青春を過ごした故郷長岡の自然環境と共生したいという願望が湧いてきました。4才の内孫の名前を角地に書いたのも、いつの日か自然が残る東山連峰の越後の名山“鋸山”を孫と登山し帰路、植樹地を訪れたいたいとの思いからです。次回のイベントにもお邪魔虫を仲間として懐に包んで下さい。謝々

(文責 細川章子)

小日向会長を追つて

野口 直意

「蒼柴の森再生植樹」の準備作業員のボランティア募集広告を紙面で見つけた時以来、先生を始め会員の皆様のお世話になっています。一昨年前に脳梗塞を患いまだく治療中の身に、先生は「リハビリのつもりで無理しなくて良いから」と気遣つて下さいますが、微力ながらも、社会貢献できる事が嬉しいのです。

「八方台いのちの森再生植樹」の時は、植栽場所を決める、測量の段階から八方台へは、足を運び、また、活動資金調達の協賛金の募金活動、苗木の準備、植樹祭の準備、会場の設営等々：先生に同行し幾度となく現場を訪れました。秋も深まり植樹祭を間近に控えたある日、先生に同行して現地で作業も終え、一息ついていると先生は、「ちょっと様子を観に行くか？」と、私をキノコ狩りに誘います。先生は植樹祭よりナラタケの方が気になつて仕方ないようです。城山コースの途中から先生はスツと、藪の中へ消えてしまいます。

何かコツでも要るのか私にはスツとはいかずオオバクロモジやカンボク、サンショウウ、ユズリハ、ヤマツツジ等が行く手を遮り、容易に進入を許してはくれません。四つんばいになり、からまるツルを払い、枝をくぐり、倒木を跨ぎ、やつとの思いで先生の後を追う。しばらくすると藪の勢いはそれ程でもなくなり深々と積つた腐葉土に適当な間隔で生えるコナラ林が現れてき

ました。先生はそこに立つて私が追いつくのを待つていてくれました。

「野口君、大変だつたろう？」

「今の部分が森林マントだよ、せいぜい10m～15m程だからそれを越えさえすればコナラだけの植生域になるから歩き易いよ。」

なるほど、確かにそうです。見渡せば一定の角度で樹々は揃つて生えていました。その時気まぐれな、秋の日射しが木漏れ日となつて、コナラの林に差しこみ腐葉土の香りを沸せました。腐葉土の香りは嫌いではありません。むしろ懐しい感じがして好きです。しばらく林に見惚れてから、「確かにそうですね。森林マント実感しました。」先生の説明に相づちをうち振り返るともう先生の姿はそこに無く一人でサツサとキノコ探しに林の奥へ行っています：

袖から差し、探るコナラの乳首かなそこで一句、

あうこゑ！

新入会員名簿

お名前	住所
北原 美枝子	長岡市福住三
田辺 昭成	長岡市福住一
金子 邦子	長岡市今朝白三
野口 直意	長岡市摶田屋三
五十嵐 一男	長岡市宮原一
岡村 美代子	長岡市古正寺町

戸隠高原を訪ねて

合宿研修に参加してー

半田 司

♠最初に訪ねた古池と呼ばれる湖水は貯水池らしかった。

水面は霧に煙つて幻想的な佇まい。池の畔には散策用の小路があり、そこでは数多の山野草を見る事ができた。特に環境指標種のウツボ草など、まさに山野草の宝庫の感がした。

♠私は今回の研修地戸隠は、初めての訪問地で、気持は高揚していました。

戸隠神社へのアプローチの両脇は歴史を物語る古色蒼然たる杉木立ち。暫し圧倒されましたが、フィトンチツトは贅沢なほど胸一杯吸うことができた。

夕方、宿をとつた

街は中社地区と呼ばれ、往時戸隠神社に信仰を求める人々が投宿した宿坊といわれる集落。

夜の懇親会は、飲めや踊れや和気相合、楽しく過ごしたことは言うまでもない。

♠二日目は奥裾花ブナ原生林を訪ねた。私の何ヶ所か知つてゐるブナ林とは、何か様相が違つてゐる。参加の皆さんは、お気づきでしたか？先生にその説をお尋ねするのをすっかり忘れていました。

♠最後に今回の合宿研修の企画、運営にご尽力されました会長並びに事業部長、関係役員の諸氏に深甚なる謝意を捧げたい。



平成15年度活動報告

新潟県山野草をたずねる会
(新潟県植生研究会)

★テーマ 植物の生きざまに学ぶ

◎足元の自然環境に学ぶ

- ・植生生態学的な自然の理解と認識を深める自然観察・調査・視察及び研修活動
(エコロジカルとビオトープ自然観の確立)

- ◎本物の緑環境の保護保全回復活動を通してのちと心を育む—<生やし・育て・植える>
・潜在自然植生構成種の実生育成運動(ドングリ育苗)
・250年のいのちと心を植えるふるさとの森(いのちの森)の植樹再生活動
(持続可能な環境の再生と共生、自然と調和するまちづくり)

- ◎自然に親しみ健康で人間性豊かな生活の追求

- ・森や自然の恵みと心の癒しを体験する活動
・会員の親和向上を図る活動

- ◎関係団体との協力連携、支援、交流活動

- ◎広報・研修活動—機関紙(かしのみ)の発行・調査・講演会等の開催

1 早春の山野草を訪ねる会兼総会

- ・期 日 3月30日(日) (27名) ・村上瀬波方面 ★レンタカー使用

2 春の野を歩き山菜を食べる会

- ・期 日 5月11日(日) (26名) ・八方台方面 ★レンタカー使用

3 みどりを育てる会—潜在自然植生が育成する本物の緑環境のまちづくり『ふるさとの木によるふるさとの森』—『いのちの心』を植えるいのちの森づくり(育苗・育樹・植樹)

- ① ドングリハウス管理定例日・自然観察会

- ・4月12日(日) 12名・5月11日(日) 26名・6月1日(日) 3名・7月13日(日) 14名

- ・8月9日(土) 9名・9月13日(日) 9名・10月11日(日) 6名・11月9日(土) 12名・12月6日(日)

- ② 樹木播種・ドングリ

- ③ いのちの森=ふるさとの森再生

1 蒼柴の森—悠久山公園・蒼柴神社叢林

- ア 植樹 6月8日(日) 160名 ・前日準備6月7日(土) 5名・8月9日(土) 9名

- ・協力団体—東北電力長岡営業所・長岡法人会

- イ 育樹 5月24日(土) 20名・6月1日(日) 3名・7月13日 14名

2 八方台の森

- ア 植樹 10月19日(日) 会員一般 250名・前日準備 18名

- ・独自事業・市民運動

- イ 育樹 5月11日(日) 八方台・6月29日 23名

- ④ 関原ぬか山会連携植樹 5月25日 10名

- ⑤ にいがた緑の百年物語関係 4月29日(火) 12名参加

4 観察会兼合宿研修(エコツアーア)〈合宿研修〉★レンタカー使用

- ・方 面—長野県鬼無里 ・期日 7月26日(土) ~ 27日(日) 26名 ・下見6月6日(金)

5 秋の野に学ぶ(キノコの識別・ドングリ拾い・観察会)★レンタカー使用

- ・期 日 9月27日(土) 23名・方面 上川

6 学び合う会兼臨時総会

- ・期 日 12月6日(土)

- ・場 所 長岡市弓町1-5-1『アトリュウム長岡』30-1250

- ・内 容 1・山野草を語り活動を反省する会(忘年会、臨時総会)

- ・講演

- ・各種成果の発表(写真・俳句・詩・キノコ・環境・生態ビデオ他)

7 機関紙の発行

- ・第18号

- ・期 日 12月6日(土) ・内 容 (活動のあしあと、感想など)

8 各種連携 市環境フェア 9月28日12名・献血友の会募金活動 8月3日8名 9月7日6名

9 その他

- ①研修の充実ー・学習会・講演会の開催 NPO研修5名参加・研修講演会 10月5日(日) 会員一般40名

- ②会主催の一般・小中高生を対象とした観察指導会の開催と要請に対応

- ③NPO法人化の検討と研修ー①持続性②信用性③資金確保④理念の具現と深化充実発展

編集後記

当会の大きな事業である蒼柴の森植樹、八方台植樹は両日とも晴天に恵まれ盛会のうちに実施することができます。できなにも勝るよろこびでした。なかでも森の成長を見届けることのできる子供達が大勢参加してくれたことは大変うれしいことです。大人達は興味を持って活動してくれると思感しました。

植樹に使つた苗木の多くが当会のドングリハウスで育苗されていることは誇つてよいことだと思います。手入れの参加者が固定していくことは、大きな負担がかかつていることの反面毎月一回のドングリハウスは一考しなければならないことだと思っています。今年は原稿を積極的に寄稿してくださった方があり編集委員一同感謝しています。

